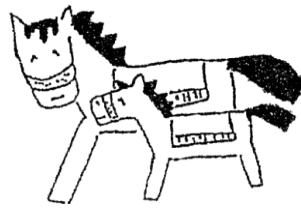


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポッキリ、ポッキリと

24年 10月 NO. 215



(厚生労働省・高松市委託事業)

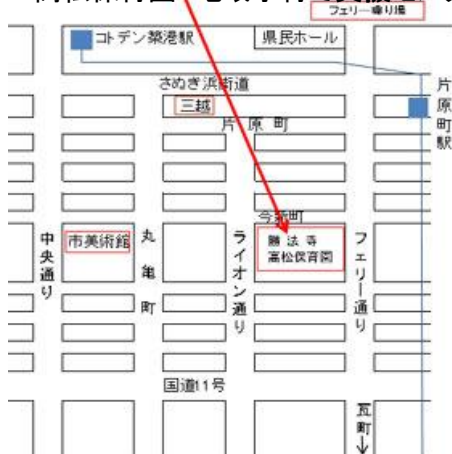
〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		10月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
10月 7日	日	運動会において 9:00～13:00	旧塩屋町小学校の運動場で。乳児さんの出番（早い時間帯）もありますので、どうぞおいでください。		
10月 12日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「秋がいっぱい」をテーマに大型絵本や手あそびなど楽しいことがいっぱいです。		
10月 13日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入ってあそびましょう。見学もかねてどうぞ。		
10月 20日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験にご夫婦でおいで下さい。		
10月 24日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「着るものは人をものがたる」をファッションクレージー50年の松岡久仁子さん（まいまい堂）に語っていただきます。		
10月 27日	土	木工教室 14:00～16:00	木製品の修理をできますのでお持ちください。		
10月 30日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり相談できます。（予約要）		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。（但し、月・日曜・祭日は休み）</li> </ul>	<p><b>育児相談（月～土）9:00～18:00</b></p> <p>しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	---

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集③  
「空のかあさま・上」より

田舎の駅は夜ふけて、  
しづかに虫が、ないてます。

ふるい人形のかあさんは、  
いく山さきを行くのやら。  
とおく、こだまがひびきます。

田舎の駅は夜ふけて、  
しづかに虫が、ないてます。

ふるい人形のかあさんは、  
いく山さきを行くのやら。  
とおく、こだまがひびきます。

しまいの汽車におどろいた、  
虫もひそひそ鳴くころに、  
箒をもったおじいさん、  
じっとみつめておりました。

ふるいのお汽車を待つこのやら。  
ふるい人形は、ただひとり。

田舎の駅の待合室に  
しづかに夜は更けました。

忘れもの



高松市医師会看護専門課程看護科の学生さん43名が7/31～8/24まで各クラスに入って2日間ずつ保育実習をしました。学生さんが実習してわかったこと、感じたことを記録からクラス別にご紹介します。

### ことり組（乳児クラス） ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

○食事の形態は月齢によって異なり、ミルクだけ、離乳食初期（6,7ヵ月）、中期（8,9ヵ月）、後期（10,11ヵ月）、移行食（12ヵ月）、普通食に分けられる。中・後・移行食の主食は軟飯であり、初期は粥である。食事の時間がくると保育士が「ごはんをたべよう」と声かけをする。1人歩きできる子は手洗いをしてイスに座る。3～5人ずつすわり、保育士がかかわりやすい人数で、食事の援助を行う。手先の運動が発達している時期なので、月齢が大きい子は手づかみで口に運び楽しみながら食事している。

### つくし組（1歳児クラス）

○園児が登園後すぐに遊びに入れるように、牛乳パックで作った積み木やぬいぐるみなど好んで遊べる玩具を用意する。登園時の様子はさまざまで、自らスムーズに入れる子どもや泣き出してしまう場合もある。そのような時はすぐに子どものそばにより声をかけたり抱いたりして安心感が得られるようにし、保護者からの分離がスムーズにできるよう関わることの大切さを学んだ。安心して園生活に入れるように日々くりかえし行っていくことで子どもとの信頼関係が築かれていくものと考えた。

### はと組（1歳児クラス）

○1才半から2才頃は1人歩きができるようになり個人差はあるがトイレトレーニングなどを始める時期である。出なくてもトイレやおまるに誘導し、排泄を促していた。汚れたオムツはそのつど交換して清潔を保つことで排泄に対する感受性を高め、時間を決めて誘導し、排尿がみられたら褒める。排泄行動の自立に向けた援助を行っていく必要がある。

### つばみ赤組（2歳児クラス）

○2～3歳児は自己中心性がつよいため順番を考えたり同じ物と一緒に共同で遊ぶことは難しい。そのためおもちゃの取り合いになってけんかになる事も多々ある。同じ種類のちがう物をわたしたり、一つしかない物であれば、間に入って一緒に遊ぶ。順番で遊べるなどの援助が必要で、けんかになる前にトラブルを回避する。三輪車の取り合いになったケースを経験し一人が乗ったあとを順番待ちの子どもと一っしょに追いかけてこのようにして遊んでいたが、どうしても次の子にかわってあげることができなかった子は、他の遊び道具などに目をむけて一緒にあそぶことができた。

### つぼみ青組 (2歳児クラス)

○今日はつぼみ赤組と遊ぶ日(なかよしデー)であり、2階の広い部屋(すみれ組の部屋)へ移動する。移動時、階段を使用するが、園児1人ひとりが必ず手すりを持ち、一列に並んで順番に登るよう声かけをする。また順番を守るため追いぬきをしないよう注意を促す。立ち止まらずまわりのペースに合わせて進めるよう園児の成長発達段階を考慮した上で順番を決める。

○病院看護では学ぶことのできないトイレトレーニングや治療食ではない普通の食事など様々な事を学ぶことができた。看護師としては、どうしてもその子の疾患にばかり目がいくが、実習では1人ひとりの子どもと接して充分いっしょに遊ぶことができた。子どもを一人の人間としてあつかい、その児が正常な発達をしていくのを手助けるために大人がいるのだということを学んだ。

### さくら組 (3歳児クラス)

○ののさまのお参りの際は、赤・青・黄グループに男女一列ずつに並び正座をして待っている。中には他の子どもと話をしたり正座をくずしたりする子もみられる。この年齢では社会性の発達段階であるので、静かにする時、他児と話せず待つ時間であることを理解するため注意することも大切。整列時は前ならえをするが腕がのび切らない子どもや腕を横に広げる子どももあり、そばについて正しい動作を理解させることが重要。

### ほし組 (4歳児クラス)

○箸を上手に使っていた。ひとりモクモク食べる子、こぼしながら周りの子をかまう子等、食事に対する集中力はそれぞれ異なっていた。ひとりゴーヤが「にがいけん食べれん」と言っている子がいたが「小さくして少しずつ食べてみようか。それで食べれんかったらスープのベーコンといっしょに食べてみよう」と促すと、少しとまどったようであったが、ゴーヤを食べることができていた。食べた後「いっぱい食べたね。苦くなかった？」との問いかけに照れたように微笑み、うなづいてくれた。頭をなでて褒めてあげたが恥ずかしそうであった。今回は苦手な物であっても少しずつ食べたり、他の好きな物と食べたり工夫する事で食べる事ができた、という自信につながったのではないかと考えられる。

### すみれ組 (5歳児クラス)

○硬筆で「こ」と「に」の文字をかいていた。就学前であるので、文字の勉強をするだけでなく、決められた時間内に椅子に座って集中することにより、これからの小学校生活で授業時間に集中していただけるような保育がされているのではないかと考えた。文字が上手にかけない子どもも書いた中で上手にかけた字を褒めることにより、子どもが意欲的に

これからも続けていこうという気持ちになるのではないかと考えた。

○大・中・小トリプル、ダブルの太鼓やシンバル、指揮者などそれぞれに分かれて整列し、行っていた。友達と同じ目的に向って役割を分担し、一つのことを成し遂げるよろこびを味わうような協力性を育てる。うまく役割を果たせず失敗することもあるため、子どもを責めたり焦らず、子どもが最後までやり遂げられるよう励ましたり、解決のヒントを与え、子どもの試行錯誤を後押しするなどの支援を行う。自分で考え、自分の力でどうにかできるようにする関わり方が必要であると考えられる。遊びと教育のけじめがつけられるようやる時はやるよう声かけをし、正しいこと悪いことの判断ができるよう援助していくことが重要であると学んだ。



高松短期大学保育学科2年生2人が8月20日～9月1日まで保育実習をしました。

#### はと組（1歳～2歳児）で実習した記録より

○昨年は2歳児の実習だったが1年違うだけで子どもの発達過程や援助方法が全然違うのに驚いた。逆に考えると、この1年で子どもたちはとても成長するのだと感じた。

#### ○中夜勤務を体験して（昼12時～夜9時まで）

大きい子が小さい子のめんどうを見たり、遊びの時には一つのことをみんなで仲良く共有しあっているところを見ると、たてのつながりの深さを感じた。今日1日だけでしたが、夜間保育に携わることで家族の一員になったかのような温かな気持ちになりました。

#### ほし組（4～5歳児）で実習した記録より

○5、6人の子どもと鬼ごっこをした。はじめは私が鬼になりうまく遊べていたが、2回目以降は、鬼をしたい子が多くなったり、子どもが増えたり減ったりでうまく遊べなくなった。さらに途中でけんかがおこり、それを聞いている途中で「あそぼう」と言ってきたり、別のところでけんかがおこった。何を優先すればよいか、1人では手におえなくなった。

○気になるその子は1人で部屋のすみに座りこみ、活動に参加しようとしなないし、保育者が声をかけてもなかなか心を開こうとしない。昨日、今日と名前を聞いたり遊びに誘ってみたが全く話をしなかった。保育者に聞くと虫が好きで友だちには心を開くとのことだった。外遊びの時、観察してみると確かに友だちと笑顔で話をしていて、バツタをつかまえて友だちと観察している姿を見ることができ、その子のことを少し知ることができた。